

## ～ セピア色の風景 ～

## 「運動会」

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

それはそれは、昔々、田舎であった小学校の運動会の風景です。

運動会は秋でした。忙しい稲刈りが始まる前だから、9月中だったのでしよう。小学校の運動会は、いわば村祭りのようなものだったので、大人も参加し、商売人による出店も出て、朝からいいにおいが漂っていました。もちろん午後までの行事なため、各家庭は弁当持参でした。

校庭には万国旗がはたみき、入退場門は紅白の幕が巻かれ、根元は松か杉の枝で飾られていました。トイレも校庭の隅に臨時につくられました。それは単に蓆（むしろ）、もちろん藁でできたもの）を立てて仕切り、その区画の地面中央に穴を掘ったものでした。

種目は、小学生のみならず

大人のものもあり、「安全運転」と称して、自転車に乗り足を着かず、真つ直ぐになるべくゆつくりゴールする定番もありました。

また、敬老の日前後ということもあつてか、多くのお年寄りも招待され、ゴザでつくられたお年寄りのための席で、孫の応援に幼なじみとの会話に喜んでいました。

カメラを持つている家庭も少なかったこともあり、会場にいる人の目と声が一体となつて、競技している人に集中していました。まさに記録に残そうではなく、今この瞬間を記憶に残した時代でした。昼食は各家庭・近所ごとで、子どもたちは弁当もそこそこ、事前に交換していた金券で出店に走り、校庭いっぱいを買ったもので遊んでいました。

そういえば種目に、消防団対抗の訓練の競争もありました。村の若者が誇らしげに、真剣なまなざしで競っていました。

何といつても運動会の花はリレーで、子どもたちのリレーに割れんばかりの声を援を浴びせ、フィナーレの集落ごとの年代別リレーでは、各集落の名譽をかけた必死の形相、もみ合い、大回り、転び、脚つり、バトン落としの走りに、最高に盛り上がりました。初秋の村祭りが終わると、いつの間にか増えた赤トンボと、黄金色の田んぼを背景に、稲刈りの季節へと秋は深まっていきました。

●あおた・しげお 1956年生まれ。福島県相馬市出身。2016年5月から仙台建設業協会の専務理事を務める